

1) 舞台形状

[1-1] 舞台面積

a) 主舞台セリ面

W 18,180 mm × D 11,817 mm 214.8 m² 71.5 坪
10 k × 6.5 k

b) 下手袖 ※主舞台セリラインより

W 8,300 mm × D 11,500 mm 95.45 m² 29 坪

c) 上手袖 ※主舞台セリラインより

W 2,700 mm × D 11,500 mm 31.05 m² 9.4 坪

d) 後舞台

W 1,800 mm × D 8,000 mm 144 m² 43.6 坪

※間口は後舞台既存壁間で奥行きは既存壁延長線上、主舞台セリライン

e) 前舞台面

馬蹄型

※奥行きは中央線上 Wは舞台間口

W 10,908 mm × D 5,000 mm 39.3 m² 11.4 坪

e) 平土間セリ面

馬蹄型

※奥行きは中央線上

W 14,150 mm × D 3,900 mm

[1-2] 舞台形式

a) 標準プロセニウム形式

プロセニウム間口 W 10.9m × H 6.6 ~ 9.1m (6K 間口)
主舞台面 W 18.2m × D 11.8m
スノコ高 H 19.0m

b) オープン形式

前舞台および平土間面の客席を撤去しアクティングエリアとして使う状態を言う。

この場合幾つかの形状が有り

イ 開閉式スケネ壁の利用

ロ 各セリ面の高さを変えての使用 (スケネ使用も同時可)

ハ 鳥屋口を使用する場合 (センター、上手、下手 3ヶ所有)

2) 機構

[2-1] 舞台床機構

a) 主舞台迫り

イ 昇降については一面構造になっていて - 2,370 mmまで沈下可能。

主劇場舞台説明

- 最低沈下位置まで行った場合は、奈落の使用は不可。
※楽屋通路から主舞台迫面へのアクセス箇所は9カ所。
 - ハ 床には3×6サイズのユニット床がはめ込まれ切り穴として使用可能（56枚）
※ユニット床の構成は図面参照
 - ニ 安全確認は人為的に行う
- b) 前舞台迫り
- イ 床は二重構造になっており客席を設置している場合通常客席面に合わせた色のユニット床がひかれています。
 - デザイン上、演出上この面を使う場合、主舞台面の色気を合わせるために客席面にあわせてあるユニット床を剥がさなくてはならない。
 - ハ 床には3×6サイズのユニット床がはめ込まれ切り穴として使用可能（7枚）
※ユニット床の構成は図面参照。
- c) 平土間迫り
- イ 客席を設置している場合通常客席面に合わせた色のユニット床がひかれています。
 - デザイン上、演出上この面を使う場合、主舞台面との色を合わせるために客席面のユニット床を剥がす。
- d) 客席段床迫り
- イ 舞台の形状によって自由に客席勾配を変えることが可能
 - 蹴上げは通常+100mm～290mm任意設定
 - ハ 基本停止箇所は2カ所
 - ニ +290mmの場合引出し式ステップを出し、蹴上げ+180mmする。
※ステップは引き出し式と置きステップ式がある。
- e) 鳥屋口昇降機
- イ 客席及び客席面の床をはがし入口を確保。
 - 昇降床は奈落レベル客席後方より乗り込み。

[2-2] 吊物機構

- a) プロセニウムブリッジ
- イ 最大間口高さはH9090mm（30尺）でそこから下降ストローク2430mm
 - 停止位置は任意に可能。（ただし行き先設定は4箇所。30尺、27尺、24尺、19尺）
 - ハ 照明、音響の器材の仕込みは、8階客席スノコから乗り込み。
 - ニ 照明等の吊り込み他作業をする場合、手動開閉扉をあけて作業。
※センターはスピーカーが設置しているため昇降不可
- b) プロセニウムサイドバトン
- イ プロセニウムブリッジと壁面に設置しているため昇降に最新の注意が必要
- c) プロセニウム内臓点吊
- イ 内臓されているレール式点吊装置はブリッジ内で手動による吊点位置の移動設定を行い、吊点部分の開閉窓を開けて、その位置で昇降を行う。

主劇場舞台説明

d) 緞帳バトン

- イ 暗転幕バトンとの同期（昇降、開閉）が可能
- ロ 幕は2倍ヒダ仕様。色は朱色
- ハ 開閉パターンは2種類。昇降パターン、引き割りパターン

e) 暗転幕バトン

- イ 通常は空状態
- ロ 暗転幕は遮音効果も兼ねているため2層構造になっている。

f) スケネ

- イ 客席壁面と同じ表面仕上げが施されている（石をモチーフにしたFRP加工）
- ロ 格納はバトン2の後ろ側に吊り上げてある。
- ハ 主舞台レベルがどの面でもセッティング可能
- ニ 着地点の位置検知は主舞台面に合わせて制御
- ホ 構成パターンいくつか有（別紙図）

g) スケネ内点吊り

- イ. スケネ内に収納されている点吊り

h) 動力バトン

- イ. 本数は全部で17本
- ロ. 駆動方式は油圧
- ハ. スピードは3～150 cm/sec（ただし荷重が600 kgを超えた場合は3～60 cm/secに設定）
- ニ. 最大積載荷重は1,000 kg
- ホ. 操作は主卓操作、副卓操作、可搬型操作卓、ギャラリーでのジョイスティックバーによる操作
- ヘ. 非常時油圧アキュムレーターによるバックアップ可能
- ト. 同期差は±20 mm

i) 手動バトン

- イ. 本数は全部で16本
- ロ. バトン操作は上手袖、各階ギャラリーで行える。
- ハ. ウェート積みは基本的に6階、7階ギャラリーで行う。
- ニ. 最大積載荷重は300 kg。
- ホ. バトン位置はCRTにて位置検知可能。

j) 前アッパー用バトン

- イ. 取外し可能な照明機材が取り付けられている。
- ロ. 照明以外の目的での使用は可能。
- ハ. 動力バトンとの同期、シーン組みはできない。
- ニ. 駆動方式は電動。

k) ホリゾンバトン

- イ. 駆動方式は電動。
- ロ. 動力バトンとの同期、シーン組は可能。

主劇場舞台説明

l) リアアップ用バトン

- イ. 取外し可能な照明機材が取り付けられている。
- ロ. 照明以外の目的での使用は可能。
- ハ. 動力バトンとの同期、シーン組はできない。
- ニ. 駆動方式は電動。

m) 東西バトン

- イ. 全部で4本。
- ロ. 動力バトンとの同期は32番バトンのみ。
- ハ. ブリッジ乗り込み口との干渉を避けるために安全に昇降させる。

n) 東西ライトバトン

- イ. 全部で8本、
- ロ. 動力バトンとの同期、シーン組はできない。
- ハ. ブリッジ乗り込み口との干渉を避けるために安全に昇降させる。

o) 動力バトン 35、36、37番

- イ. 駆動方式は電動。
- ロ. 他の動力バトンとの同期はしない。
- ハ. スピードは一定。
- ニ. 最大積載荷重は600kg。
- ホ. 操作は主卓操作、副卓操作、可搬型操作卓、ギャラリーでのジョイスティックレバーによる操作。

p) 移動式点吊り

- イ. 200kgタイプ(12台)、125kgタイプ(10台)を装備。
- ロ. 駆動方式は電動。
- ハ. スピードは2～100cm/sec
- ニ. ポイントはスノコ上で任意に設置。
- ホ. 操作は主卓操作、副卓操作、可搬型操作卓が可能。
(ただし、設置後0検知をさせるまではスノコ上でマニュアル操作)
- ヘ. 同期差は±20mm

3) 客席

[3-1] 標準プロセニウム形式

	1階	2階	3階	合計
イ. 標準形式	391席	115席	94席	600席
ロ. 張出し6尺				569席
ハ. 前舞台使用				540席

※ほかに消防法で許される限り自由に構成。

※車椅子席4台分(12席)確保。

※立ち見88人

[3-2] オープン形式

	1階	2階	3階	合計
イ. 標準形式	331席	115席	94席	540席
ロ. 平土間				513席

※ほかに消防法で許される限り自由に構成。

※車椅子席4台分(12席)確保。

※立ち見88人

[3-3] 鳥屋口仕様(前舞台仕様)

イ. 片側鳥屋口	540席
ロ. 中央鳥屋口	526席
ハ. 両側鳥屋口	516席
ニ. 三箇所鳥屋口	502席

※ほかに消防法で許される限り自由に構成。

※車椅子席4台分(12席)確保。

※立ち見88人

4) 搬入口

[4-1] エレベーター搬入

- イ. 地下駐車場B2よりエレベーター搬入。
- ロ. 搬入車両は4tトラックまで高さはh3.4mまで。
- ハ. 上手奥舞台より搬入。
- ニ. エレベーターサイズ W=1.85m D=5.8m H=3.0m
- ホ. 停止階 B2F、3F、4F

[4-2] クレーン搬入

- イ. 地上1階外よりゴンドラ搬入。
- ロ. 搬入車両および搬入届けを警察署提出。
- ハ. 下手袖舞台より搬入。
- ニ. ゴンドラサイズ H=1.1m D=1.9m W=3.5m
- ホ. 積載可能重量 1,000 kg

5) 照明ブリッジ

- イ. 従来の固定式ブリッジではなく、任意の位置に吊り込むことができる。
- ロ. ブリッジは6分割され動力バトンまたは移動式点吊りでつり下げる。
- ハ. 1列はW = 18,000 mmで6分割されていて、これが3列あり。
- ニ. 乗込みは上手6Fギャラリー、下手7Fギャラリーより。
- ホ. 別紙構造図面あり。

6) 制御・操作

[6-1] 操作卓

a) 主操作卓

- イ. 全行程（仕込、リハーサル、シーン入力等）の中核的役割を担う。
- ロ. 主としてシーン運転を行う為の操作卓。
- ハ. 高さ決めなどは CRT をモニターして高さデーターなどをシートに記録し、そのままシーン作成を行うことができる。 ※副卓との連携となる。
- ニ. 他の操作卓で運転を行っていてもシーン作成、編集をすることができる。

b) 副操作卓

- イ. 舞台上のあらゆる場所で操作可能な可搬型操作卓。
- ロ. 仕込作業は主にこれで行う。
- ハ. 操作形態
 - あ. 行き先指定を行い操作する。
 - い. ボタンで昇降操作をする。
 - う. ジョイスティックによる可変速度運転操作をする。
 - え. シーン運転操作（主卓の遠隔操作）
- ニ. 主卓へのデータ移送

c) トランク式操作卓

- イ. 舞台上あらゆる場所で操作可能な可搬型操作卓
- ロ. 仕込作業は主にこれで行う。
- ハ. 操作形態
 - い. ボタンで昇降操作をする。
- ニ. 客席での操作が可能。

[6-2] ジョイスティック操作

- イ. 各動力バトンのマニュアル操作に使われる。
- ロ. レバー方式による操作。
- ハ. 可変速が可能。
- ニ. ギャラリーに設置。

なお、この資料は 1997 年オープン時に作成したもののため、変更点などある場合があります。詳細は劇場技術部機構担当者へお問い合わせ下さい。